

平成30年度 生涯学習・社会教育関係職員研修講座

「下北地区研修」

平成30年5月29日(火) 会場(むつ合同庁舎 旧館2階 大会議室)
受講者数 24名

平成30年度生涯学習・社会教育関係職員研修講座における「下北地区研修」を5月29日(火)にむつ合同庁舎で実施しました。

今回は県内6地区で開催する【地区研修】の『下北地区』の関係職員等を対象とした研修会で、地域課題にあげられる「地域全体で子どもを育む活動の充実」をテーマに行いました。

講師に、弘前大学大学院 地域社会研究科 准教授 土井 良浩 氏をお招きし、「子ども・子育てを核とした地域づくりを考える」と題し、地域づくりの事例紹介を交えて市民主体の地域づくり活動を推進するためのファシリテーターの役割について御講義をいただきました。

また、後半の演習では、「子どもを育む地域活動を企画してみよう」という題材で、「地域において子どもが抱えている課題は何か？」をグループで話し合い、その課題解決に向けた活動について企画するグループワークを行いました。

【講師：土井 良浩 氏】

【研修の様子】

【アイスブレイク】



1. 講義：「子ども・子育てを核とした地域づくりを考える」

講師：弘前大学大学院 地域社会研究科 准教授 土井 良浩 氏

【概要】

(1)：「事例発表」

ア 平内町藤沢地区

- ・従来の町会・子ども会活動を現在も現役で行っている。

1月：正月の餅つき、繭玉づくり、3月：子ども会総会、8月：子ども会のねぶた運行、藤沢八幡宮夏祭り、親子クッキング、子どもの体験(ダンボール釜でピザづくり)

イ 子どもの学習支援事業(弘前市事業)学習支援教室「あっぷる一む」

- ・経済的な理由等により学習塾に通うことが困難な中学生を対象。
- ・事業を弘前市社会福祉協議会に委託、弘前大学ボランティアセンター協力のもと、大学生による無料の学習支援教室を開催。

ウ 自分の責任で自由に遊ぶ遊び場の運営：羽根木プレーパーク

- ・世田谷区羽根木公園内に1979年開園した冒険遊び場、1980年から協働プレーパーク事業として運営
- ・行政が、NPO法人プレーパーク世田谷に事業委託し、地域の人たちが世話人となって運営に携わる。

エ 校庭を子どもの学習の場所に変え小学校を地域に開く活動：守山小学校あったらいいなこんな学校の会

- ・PTAのOGのお母さん達が運営メンバー、小学校と協働で子どもの環境学習に取り組む。

- ・運営資金はまちづくり活動助成制度を活用。

オ 遊びは学び～環境学習とプレーパーク～：せたがや水辺デザインネットワーク

- ・地元企業との連携（デパートでパネル展示、メダカの池観察会、子ども向け有償カルチャースクール実施）
- ・地元小学校のビオトープでインタープリター活動や小学校の全校児童を対象とする川遊び体験を開催。

カ 乳幼児の遊び場・食を通じた子育て支援の場所づくり：のざわテットーひろば

- ・子ども（主に乳幼児）の遊び場の提供、食育、各種イベント開催、子育て中の親の支援
- ・遊び場運営、ランチ提供（週1日）、季節毎のイベント開催、子育てや食育等をテーマとする講座

キ 移住受入、地域で子育て、子どもを地域のプレーヤーに：伊座利のまちづくり

- ・漁村留学の仕組み（お試し、短期）※協議会や校長が面接して親の覚悟を確認して受入を決める。
- ・子ども（連れの家族）に移住してもらおうきっかけとして「海の学校」開催。

(2)：地域づくりにおけるファシリテーターの役割

ア ファシリテーターとは

- ・ワークショップの進行役・運営者を呼ぶのに使われる。・会議の進行役というイメージが強い。
- ・促進役・支援者であり、従来のリーダーではない。

イ ワークショップにおけるファシリテーターの役割

- ・プログラムを進行する。「落ちこぼれ」が出ないように気を配る。・話しやすい雰囲気をつくる。
- ・中立的に振る舞う。・ゴール（例：その日に決めたいこと）に到達するように場をコントロールする。

ウ 地域づくりにおけるファシリテーターとは、

- ・継続的な対話の場を作つくり、運営して、
- ・参加者の中で地域課題を共有して、
- ・参加者のやる気や力を引き出しながら、
- ・目標に向けた適切なプロセスを運営し、
- ・参加者たちの具体的な行動が起こるように、 **助け、促す人である。**

2. 演習：「子どもを育む地域活動を企画してみよう」

演習では、「子どもを育む地域活動を企画してみよう」というタイトルでグループワークを行いました。まず、「地域において、子どもが抱えている課題は何か」を話し合い、「最終的にどんな地域活動を生み出すことを目指すのか」を軸にグループワークが進められました。また、その企画を行う際、「誰に対して参加を呼びかけるのか?」「生み出された地域活動の担い手（組織・協働）のイメージは?」の二点をはっきりさせることで、より具体的に企画運営の形をイメージすることができました。最後にお互いの情報を共有する為にグループ毎に企画した地域活動について発表を行いました。受講者にとって地域課題を確認する機会となり、また、今後の地域活動の企画・運営を行う際の手法を学ぶことができた有意義な演習となりました。

3. 受講者の感想

- ・ワークショップの進め方について学ばせていただきました。今後の業務に役立たせていきたいと考えました。
- ・子どもが少なくなっている今、子どもが子どもらしく過ごせるところ、時間を提供できたらと思いますので、これからもいろいろな団体と協力して子どもたちのために取り組みたいと思います。
- ・改めて地域での子どもたちの活動の大切さを感じました。下北の自然を生かした取組が健全な子どもを育む上で不可欠であると思います。
- ・地域の課題を解決するための方法を具体的に研修させていただきました。今回は子どもの居場所づくりを中心に考えましたが、町内会の様々なことに活用できればと思います。